

政策評価調書（個別票）

【政策ごとの予算額】

政策名	公害紛争の処理、土地利用の調整			番号	①				
評価方式	総合・実績・事業	政策目標の達成度合い	相当程度進展あり						
(千円)									
	予算科目				他に記載のある 個別票の番号	予算額			
	会計	組織／勘定	項	事項		2年度 当初予算額		3年度 概算要求額	
政策評価の対象と なっているもの	一般会計	公害等調整委員	公害等調整委員会	公害紛争処理等に必要経費		50,792		50,792	
	小 計				一般会計	< 50,792 >	の内数	< 50,792 >	の内数
					特別会計	< >	の内数	< >	の内数
政策評価の対象と なっていないが、 ある政策に属する と整理できるもの									
	小 計				一般会計	< >	の内数	< >	の内数
					特別会計	< >	の内数	< >	の内数
合 計					一般会計	< 50,792 >	の内数	< 50,792 >	の内数
					特別会計	< >	の内数	< >	の内数

令和2年度実施施策に係る事前分析表

(公害等調整委員会30-1-①)

施策名	公正かつ中立な立場からの公害紛争事件の迅速かつ適正な処理				担当部局名	公害等調整委員会事務局総務課	作成責任者名 (※記入は任意)	総務課長 荒木 健司
施策の概要	公害紛争処理法に基づき、あっせん、調停、仲裁及び裁定を行い、公害に係る紛争の迅速・適正な解決を図る。				政策体系上の位置付け	公害紛争の処理		
達成すべき目標	公正かつ中立な立場からの公害紛争事件の迅速かつ適正な処理を図る。				目標設定の考え方・根拠	公害に係る紛争について、「その迅速かつ適正な解決を図ることを目的とする。」と定める公害紛争処理法第1条の規定を踏まえたもの。	政策評価実施予定時期	令和5年8月
測定指標	基準値	目標		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値			測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度	目標年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
1 公害等調整委員会における公害紛争事件の受付、係属及び終結の状況	19件(受付) 45件(係属) 20件(終結)	-	受け付け次第、適正に手続を実施	令和4年度	-	-	-	公害紛争事件の処理状況を端的に示す指標であるため。基準値は、受付・係属件数については平成29年度～令和元年度の平均、終結件数については、受付件数を上回ることが事件の滞留防止に寄与するため、受付件数+1件としている。なお、業務の性格(申請により開始する、準司法的な紛争解決手続)を踏まえ、「受け付け次第、適正に手続を実施」することを目標としている。
2 事件調査の実施状況	27回 (総回数) 0.61回 (1事件当たり平均実施回数)	平成29年度～令和元年度の平均値	必要な事件調査を積極的・効率的に実施	令和4年度	-	-	-	公害紛争の迅速・適正な処理を図るための手段の一つであるため。なお、事件の内容・性格等を助案の上、必要に応じて実施するものであることを踏まえ、「必要な事件調査を積極的・効率的に実施」することを目標としている。
3 裁定事件(大型事件又は特殊な事件を除く。)の平均処理期間	1年3か月 (専門的な調査を要しないもの) ----- 2年 (専門的な調査を要するもの)	-	裁定事件(大型事件又は特殊な事件を除く)の平均処理期間が、専門的な調査を要しないものについては1年3か月、専門的な調査を要するものについては2年以内となるよう事件を処理	令和4年度	1年3か月 ----- 2年	1年3か月 ----- 2年	1年3か月 ----- 2年	公害紛争事件の処理状況を端的に示す指標であるため。なお、個々の事件の特性を踏まえて評価するため、2種類の目標を定めている。
4 現地期日の開催状況	3回	平成29年度～令和元年度の平均値	現地で開催することが適当であると考えられる期日について、可能な限り開催	令和4年度	-	-	-	公害紛争の迅速・適正な処理を図るための手段の一つであるため。なお、開催は当事者の意向や事件・期日の内容・性格等を助案するとされていることを踏まえ、「現地で開催することが適当であると考えられる期日について、可能な限り開催」することを目標としている。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する 指標	達成手段の概要等		令和2年 行政事業レビュー 事業番号
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
(1) 公害紛争処理等に必要経費(昭和47年度)	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	1~4	・公害紛争の迅速・適正な解決のため、申請人の主張する加害行為と被害との因果関係の存否の判断に資する調査や、東京から離れた所に在住する当事者の負担軽減を図るための被害発生地等での審問期日等の開催、公害紛争処理制度の利用促進のための広報活動等を実施。 ・鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整を図る上で必要な調査や、土地収用法に基づく意見照会への回答等を適正に行う上で必要となる手続を実施。		-
施策の予算額・執行額	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)		-	

令和2年度実施施策に係る事前分析表

(公害等調整委員会30-1-②)

施策名	国民の安全・安心に資するための公害紛争処理制度の利用の促進等				担当部局名	公害等調整委員会 事務局総務課	作成責任者名 (※記入は任意)	総務課長 荒木 健司
施策の概要	公害紛争処理制度の一層の理解と利用につながるよう、広報及び関係機関等への周知を行うほか、地方公共団体との連携を図る。				政策体系上の位置付け	公害紛争の処理		
達成すべき目標	国民の安全・安心に資するため、公害紛争処理制度の利用の促進等を図る。				目標設定の考え方・根拠	公害に係る紛争について、「その迅速かつ適正な解決を図ることを目的とする。」と定める公害紛争処理法第1条の規定を踏まえたもの。	政策評価実施予定時期	令和5年8月
測定指標	基準値		目標		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値			測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
1 公害等調整委員会における公害紛争事件の受付、係属及び終結並びに公調委公害相談ダイヤルの相談の状況	19件(受付) 45件(係属) 20件(終結) 313件(相談)	-	利用促進に必要な広報・周知を実施	令和4年度	-	-	-	公害紛争処理制度の利用状況を端的に示す指標であるため。基準値は、受付・係属・相談件数については平成29年度～令和元年度の平均、終結件数については、受付件数を上回ることが事件の滞留防止に寄与するため、受付件数+1件としている。なお、業務の性格(申請により開始する、準司法的な紛争解決手続)を踏まえ、「利用促進に必要な広報・周知を実施」することを目標としている。
2 都道府県公害審査会等における公害紛争事件の受付、係属及び終結の状況	41件(受付) 77件(係属) 40件(終結)	平成29年度～令和元年度の平均値	利用促進に必要な広報・周知を実施	令和4年度	-	-	-	地方公共団体に係る公害紛争処理制度の利用状況を示す指標であるため。なお、業務の性格(都道府県の公害審査会等が申請を受けて開始する、準司法的な紛争解決手続)を踏まえ、「利用促進に必要な広報・周知を実施」することを目標としている。
3 ブロック会議参加者アンケートにおける「業務に役に立った」の割合	ブロック会議参加者アンケートにおける「非常に満足」と「満足」を足した割合が77.7%	令和元年度	ブロック会議参加者アンケートにおける「業務に役に立った」の割合が80%	令和4年度	80%	80%	80%	地方公共団体との情報交換等を通じ、相互の連携を図ったことを端的に示す指標であるため。基準値は、令和元年度ブロック会議参加者アンケートにおける「非常に満足」と「満足」を足した割合が77.7%であったことを踏まえ、「業務に役に立った」の割合が80%であることを目標としている。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等	令和2年 行政事業レビュー 事業番号	
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
(1) 公害紛争処理等に必要経費(昭和47年度)	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	1～3	・公害紛争の迅速・適正な解決のため、申請人の主張する加害行為と被害との因果関係の存否の判断に資する調査や、東京から離れた所に在住する当事者の負担軽減を図るための被害発生地等での審問期日等の開催、公害紛争処理制度の利用促進のための広報活動等を実施。 ・鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整を図る上で必要な調査や、土地収用法に基づく意見照会への回答等を適正に行う上で必要となる手続を実施。	-	
施策の予算額・執行額	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		-	

令和2年度実施施策に係る事前分析表

(公害等調整委員会30-2-①)

施策名	鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整				担当部局名	公害等調整委員会事務局総務課	作成責任者名 (※記入は任意)	総務課長 荒木 健司
施策の概要	鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整を図るため、鉱区禁止地域の指定、鉱業等に係る行政処分に対する不服の裁定を行う。				政策体系上の位置付け	土地利用の調整		
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱区禁止地域指定請求事件を適正に処理する。 ・鉱業等に係る行政処分に対する不服の裁定事件を適正に処理する。 				目標設定の考え方・根拠	「鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整を図る」と定める鉱業等に係る土地利用の調整手続等に関する法律第1条の規定等を踏まえたもの。	政策評価実施予定時期	令和5年8月
測定指標	基準値		目標		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値			測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
1 鉱区禁止地域指定請求事件の平均処理期間	1年6か月	—	受け付け次第、適正に手続を実施	令和4年度	-	-	-	土地利用調整に係る主要な業務である鉱区禁止地域指定の処理状況を端的に示す指標であるため。基準値は直近3件の平均値とした。なお、業務の性格(各大臣又は都道府県知事からの申請により開始)を踏まえ、「受け付け次第、適正に手続を実施」することを目標としている。
2 鉱業等に係る行政処分に対する不服の裁定事件の受付、係属及び終結の状況	2件(受付) 6件(係属) 2件(終結)	—	受け付け次第、適正に手続を実施	令和4年度	-	-	-	土地利用調整に係る主要な業務である不服裁定事件の処理状況を端的に示す指標であるため。基準値は、平成29年度～令和元年度の平均としている。なお、業務の性格(申請により開始する、準司法的な紛争解決手続)を踏まえ、「受け付け次第、適正に手続を実施」することを目標としている。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する 指標	達成手段の概要等	令和2年 行政事業レビュー 事業番号	
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
(1) 公害紛争処理等に必要経費(昭和47年度)	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	1、2	<ul style="list-style-type: none"> ・公害紛争の迅速・適正な解決のため、申請人の主張する加害行為と被害との因果関係の存否の判断に資する調査や、東京から離れた所に在住する当事者の負担軽減を図るための被害発生地等での審問期日等の開催、公害紛争処理制度の利用促進のための広報活動等を実施。 ・鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整を図る上で必要な調査や、土地収用法に基づく意見照会への回答等を適正に行う上で必要となる手続を実施。 	-	
施策の予算額・執行額	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-		

令和2年度実施施策に係る事前分析表

(公害等調整委員会30-2-②)

施策名	土地利用に関する行政庁の適正な処分の確保				担当部局名	公害等調整委員会事務局総務課	作成責任者名 (※記入は任意)	総務課長 荒木 健司
施策の概要	土地利用に関する行政庁の適正な処分を確保するため、主務大臣に対する意見照会への回答等を行う。				政策体系上の位置付け	土地利用の調整		
達成すべき目標	土地収用法に基づく意見照会への回答等を適正に行う。				目標設定の考え方・根拠	「公共の利益の増進と私有財産との調整を図り、もつて国土の適正且つ合理的な利用に寄与することを目的とする。」と定める土地収用法第1条の規定等を踏まえたもの。	政策評価実施予定時期	令和5年8月
測定指標	基準値	基準年度	目標	目標年度	年度ごとの目標値			測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					年度ごとの実績値			
					令和2年度	令和3年度	令和4年度	
土地収用法に基づく意見照会への回答事案等の受付、係属及び終結の状況	3件(受付) 21件(係属) 3件(終結)	-	受け付け次第、適正に手続を実施	令和4年度	-	-	-	土地利用調整に係る主要な業務である意見照会等事案の処理状況を端的に示す指標であるため。基準値は、受付・係属件数については平成29年度～令和元年度の平均、終結件数については、同期間に多数の事件が処理され、同期間末の未処理件数が1件である中、引き続き滞留が発生しないようにするため、受付件数と同数としている。なお、業務の性格(国土交通大臣等からの照会等により開始)を踏まえ、「受け付け次第、適正に手続を実施」することを目標としている。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等		令和2年 行政事業レビュー 事業番号
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
(1) 公害紛争処理等に必要な経費(昭和47年度)	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	1	<ul style="list-style-type: none"> ・公害紛争の迅速・適正な解決のため、申請人の主張する加害行為と被害との因果関係の存否の判断に資する調査や、東京から離れた所に在住する当事者の負担軽減を図るための被害発生地等での審問期日等の開催、公害紛争処理制度の利用促進のための広報活動等を実施。 ・鉱業、採石業又は砂利採取業と一般公益又は農業、林業その他の産業との調整を図る上で必要な調査や、土地収用法に基づく意見照会への回答等を適正に行う上で必要となる手続を実施。 		-
施策の予算額・執行額	58百万円 (26百万円)	59百万円 (24百万円)	59百万円 (26百万円)	51百万円	施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-		